

能動的な交通安全立哨活動 による歩行者優先運転の促進

「クルマ優先社会」から「ひと優先社会」 への意識変容を目指す！

- 山崎 基浩 （公財）豊田都市交通研究所
- 安川 和博 豊田市地域振興部交通安全防犯課
- 愛川 遼 豊田市地域振興部交通安全防犯課

研究の背景と目的

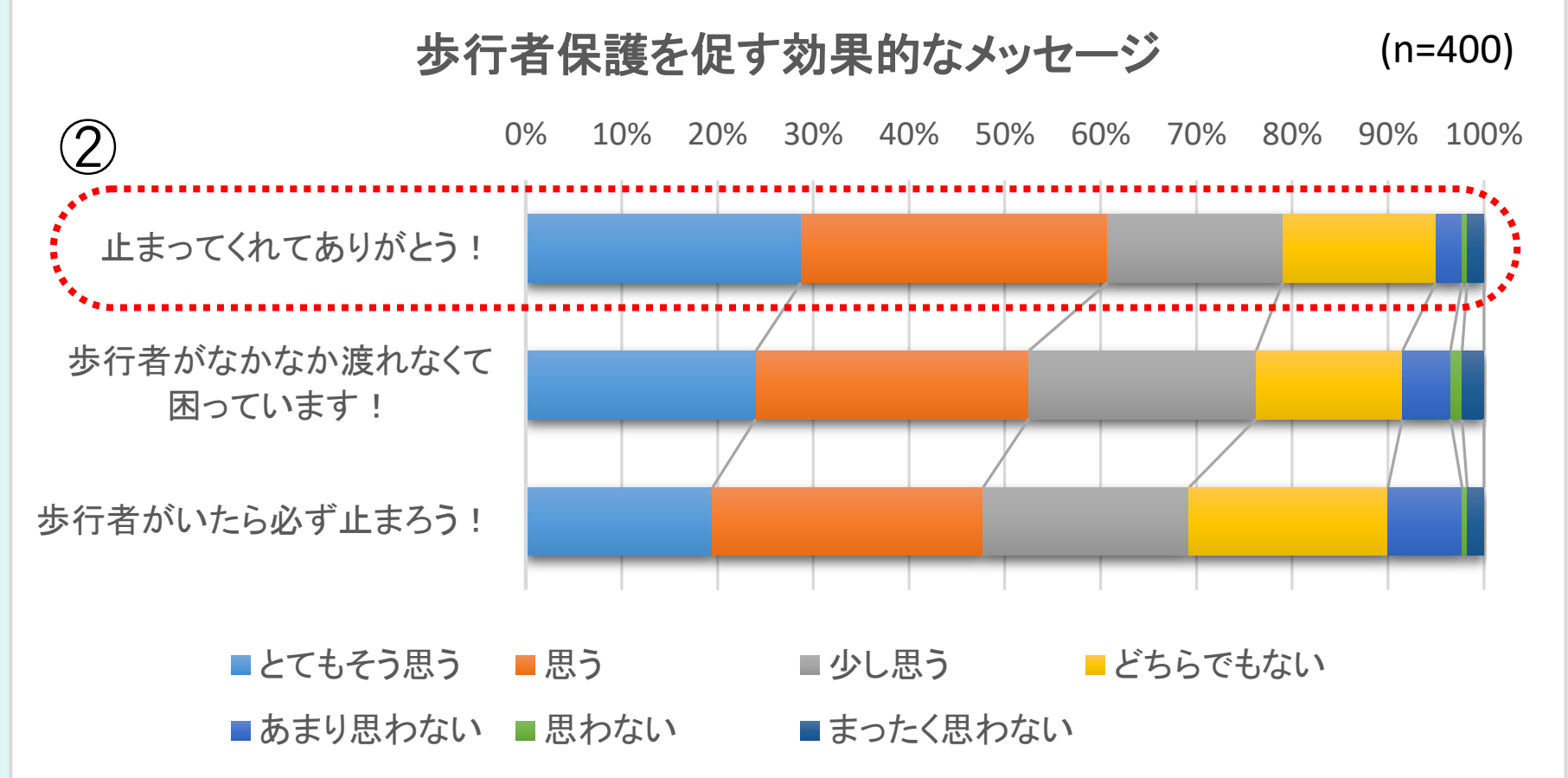
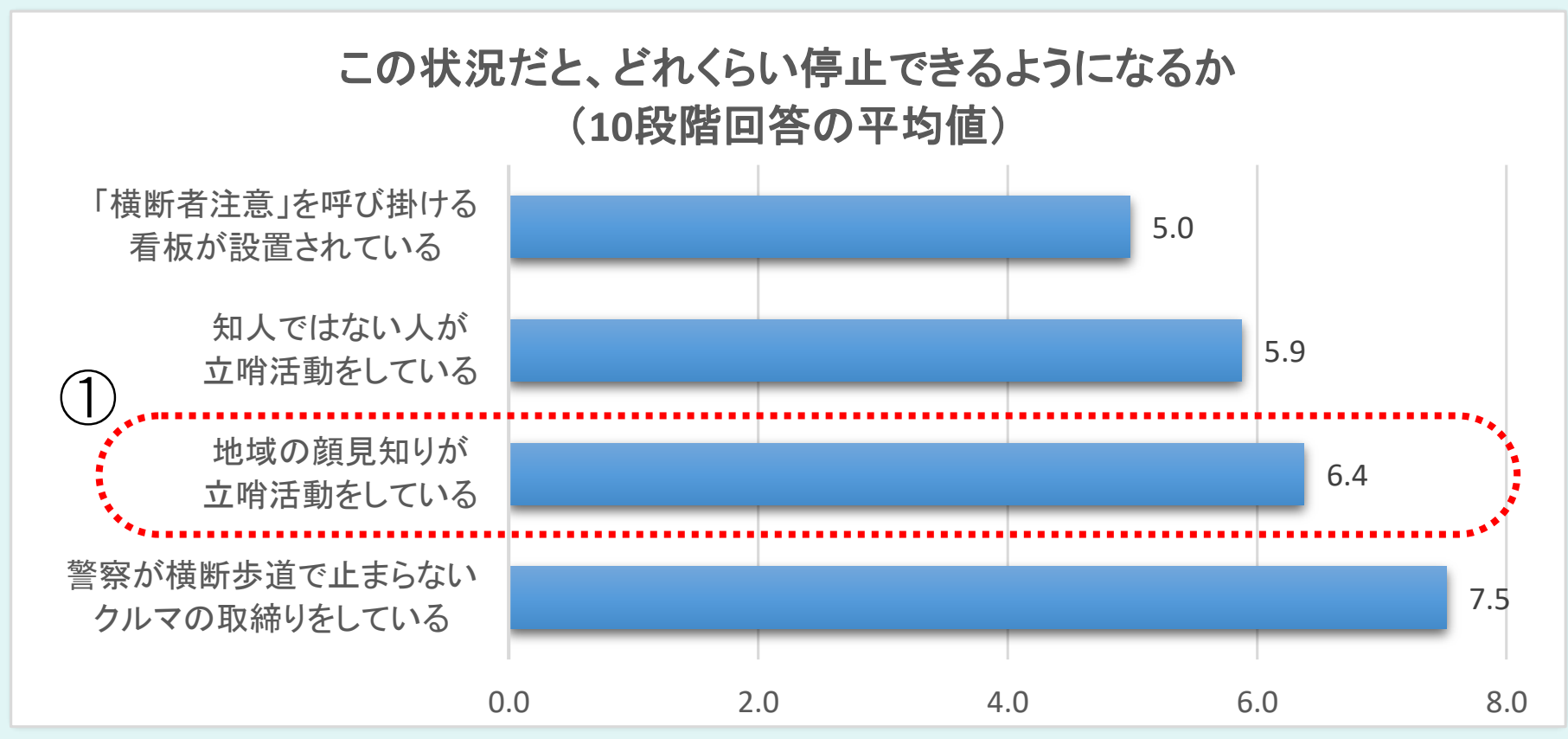
豊田市では「人对車両事故」削減を
目指し『歩行者保護モデルカー活
動』に官民あげて取り組んでいる



取組評価アンケート調査結果から
① 顔見知りによる立哨活動
② 謝意を示すメッセージ
が効果的であることが期待された



路側での効果的な交通安全
啓発活動の全市展開を目指
し、試行を実施し効果を検証



こんなことを考えました

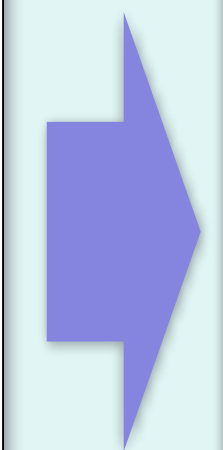
市民・企業等により実施されている立哨

- 交通安全市民運動期間中などに実施。「交通安全」「シートベルト」「守ろうルール」などのプレートを持って歩道に立ち並び、通行車両ドライバーに安全運転を訴える。



「能動的な」立哨の効果を検証する

- 横断歩道での停止等、歩行者優先行動に対する謝意をプレートで提示。
- 立ち並びだけではなく、ドライバーとのアイ・コンタクトを積極的に。



- 横断歩道での歩行者優先(停止)行動を促すために、「交通安全市民運動」期間中などの立哨活動を活かして効果的な啓発はできないか？
- 無信号横断歩道で「歩行者優先」「止まってくれてありがとう」等のプレートを提示しながら「能動的な」立哨活動を試行する実験を実施し効果を検証。

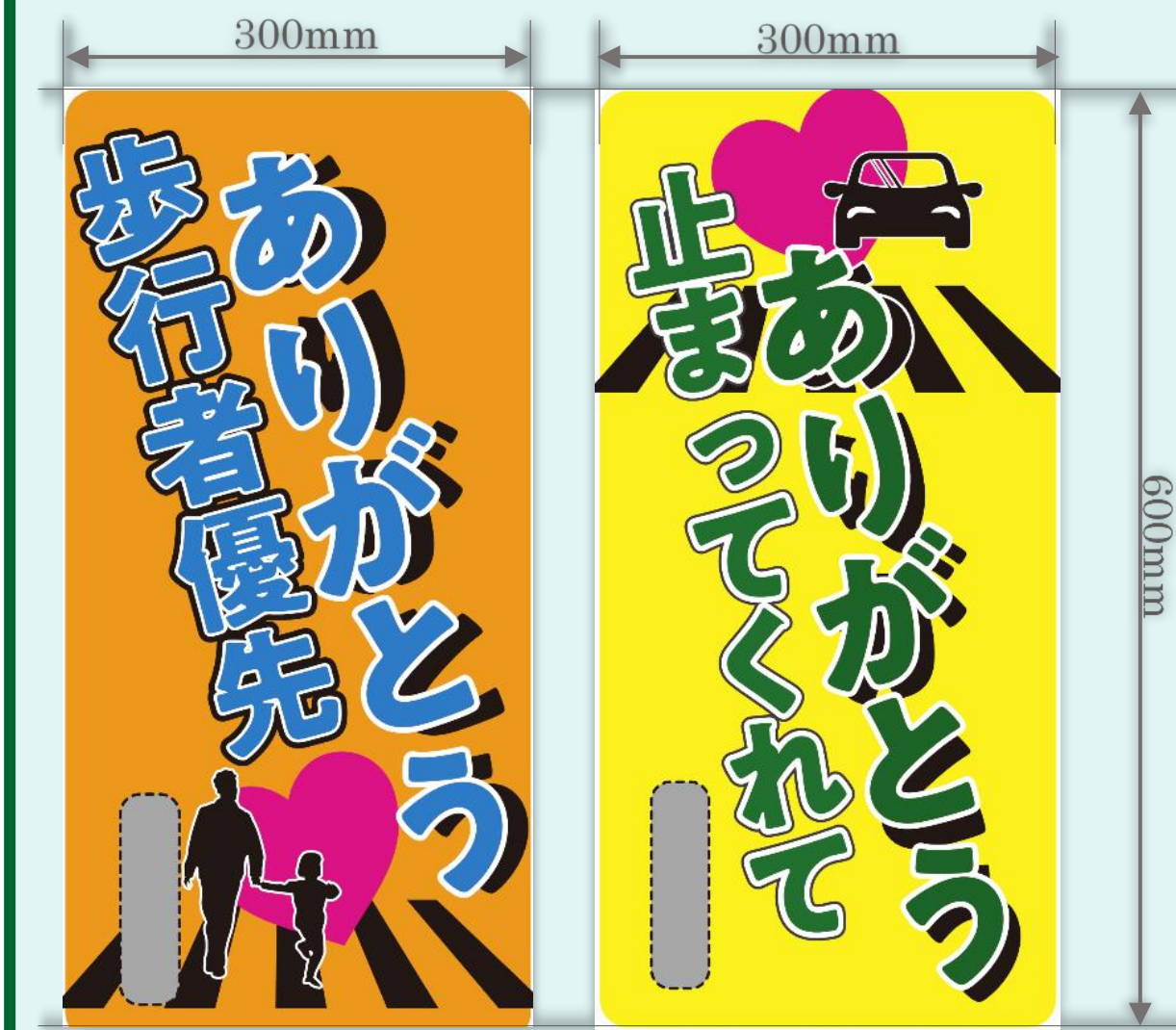
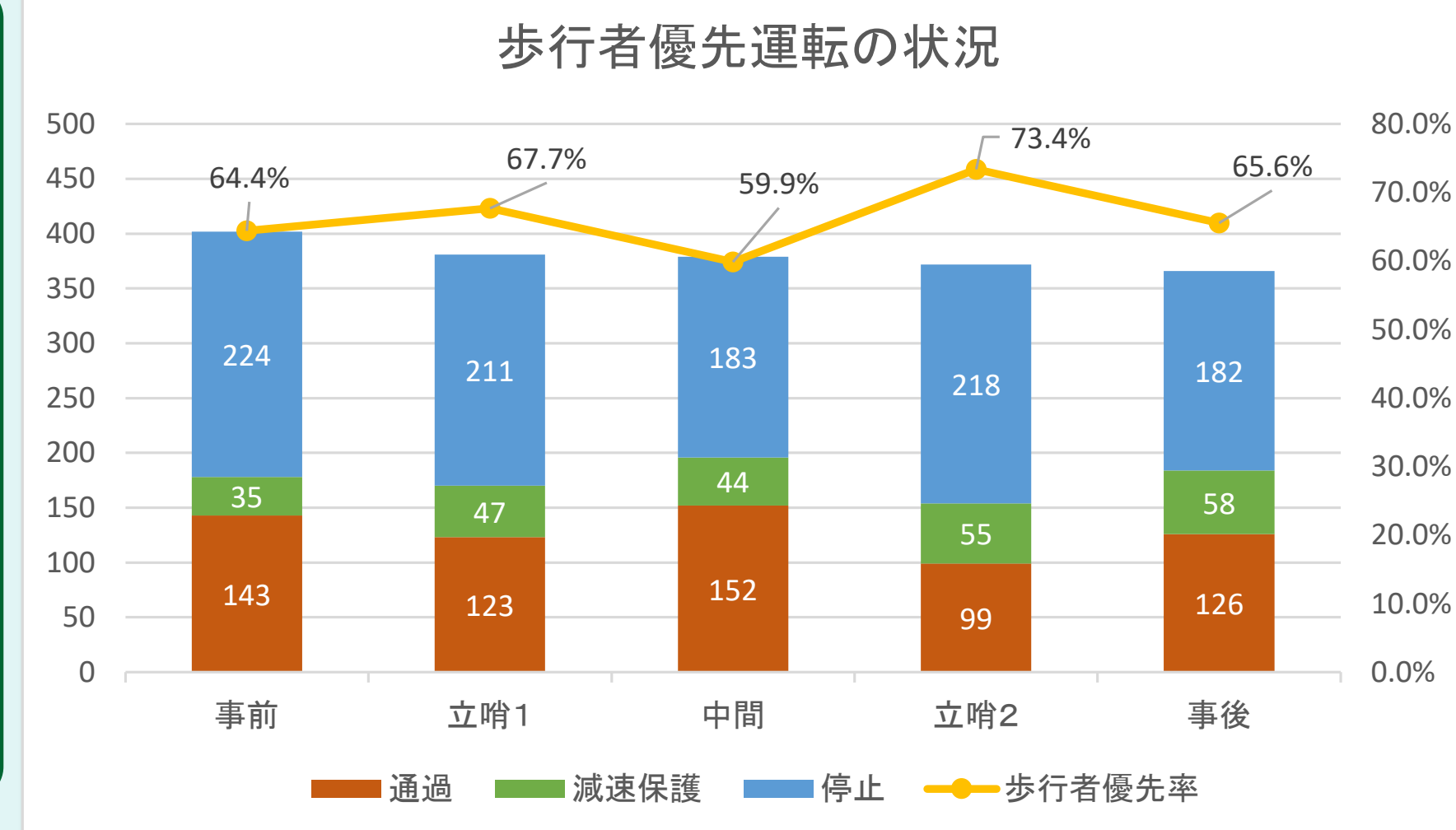
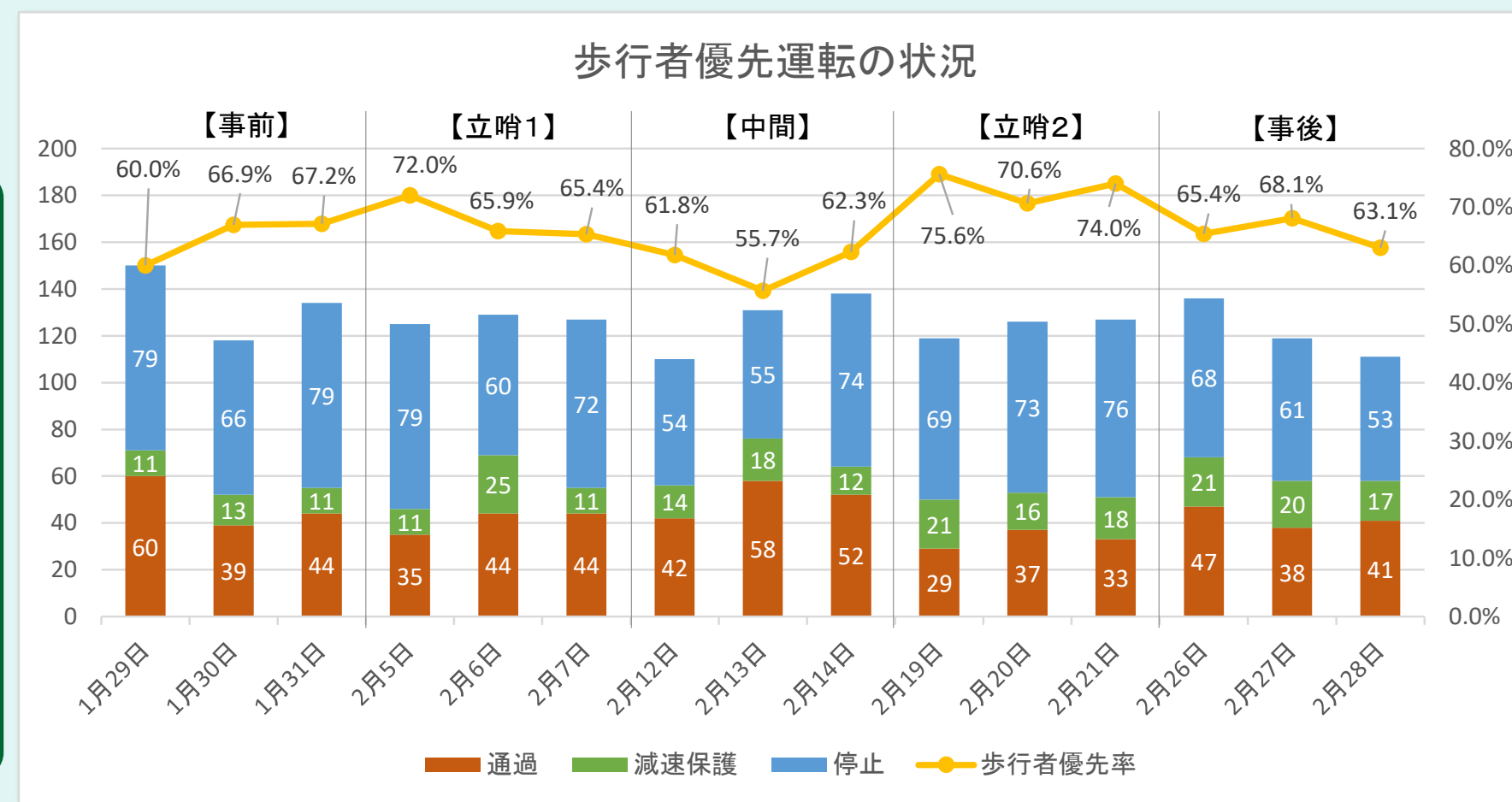
実証実験の概要

ターム	実施内容
(1) 事前調査 [1月29日～31日]	対象横断歩道での停止状況を観測(ビデオ撮影)。 平日3日間、朝の立哨時間帯(7:30～8:30)に調査を実施。
(2) 立哨試行1 謝意プレート無しの通常立哨活動 [2月5日～7日]	事前調査の翌週3日間連続で通常の立哨活動を実施。 謝意プレートの提示は行わず、「シートベルト」「交通安全」等のプレートを持って立哨。 停止状況を観測(ビデオ撮影)。
(3) 中間調査 [2月12日～14日]	通常の立哨活動実施後の停止行動変化を確認。 【立哨試行1】の翌週に調査(ビデオ撮影)。
(4) 立哨試行2 謝意プレートを用いた「能動的な」立哨活動 [2月19日～21日]	事後調査の翌週3日間連続で「能動的な」立哨活動を実施。 横断しようとしている歩行者がいるときに停止した車両に対して、謝意プレートを提示。 横断歩道手前10m程度の位置で「歩行者優先ありがとう」、横断歩道通過直後に「止まってくれてありがとう」と提示。 積極的にドライバーとのアイコンタクトにより「謝意」を伝える。 停止状況を観測(ビデオ撮影)。
(5) 事後調査 [2月26日～28日]	謝意プレートを用いた立哨の効果を検証。 【立哨試行2】の翌週に調査(ビデオ撮影)。

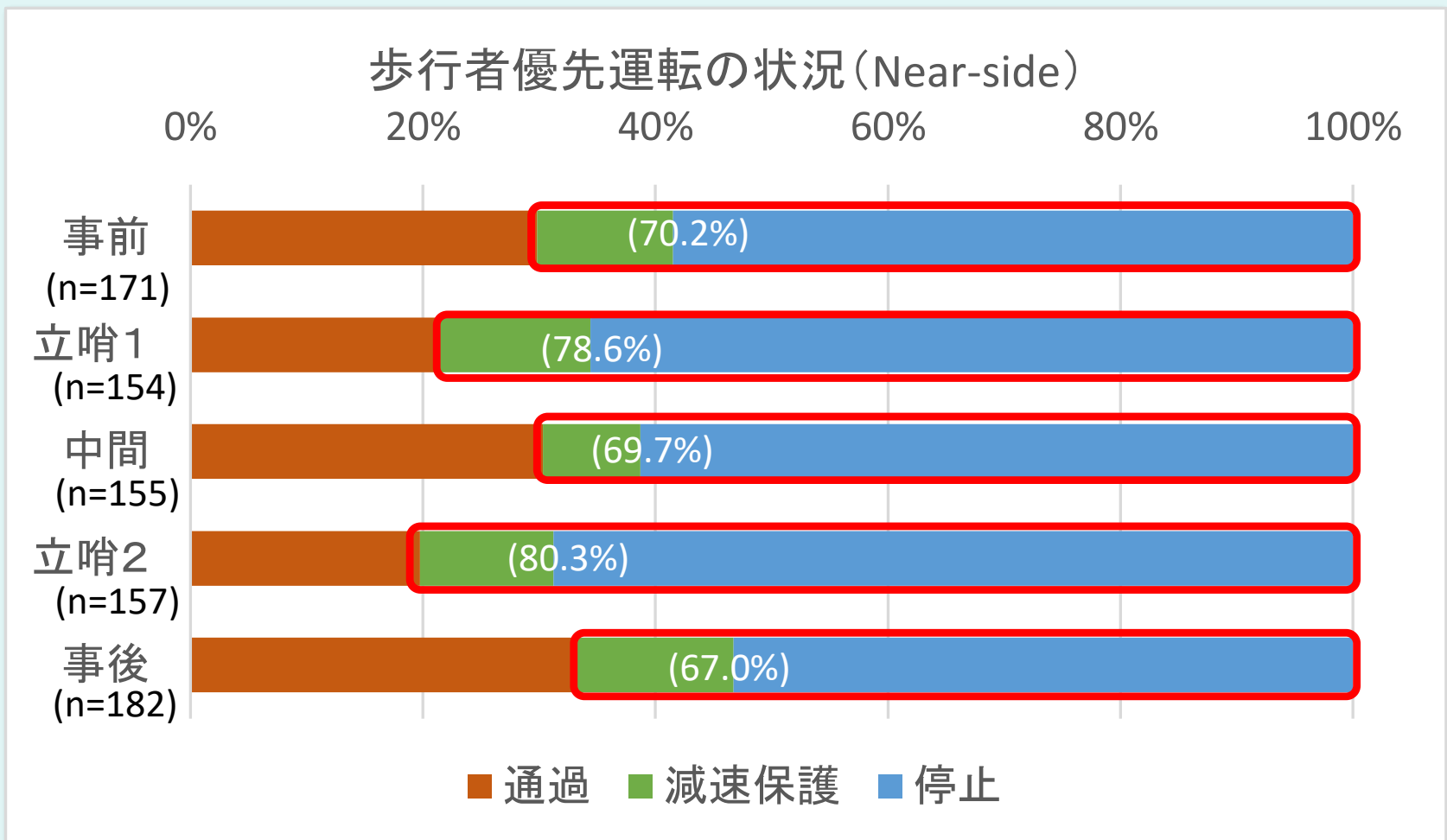
実験結果

- 日単位で見ると、変動が大きい
- 立哨2の初日(2月19日(火))が最も高い歩行者優先率(75.6%)
- 立哨1の翌週(中間調査)は歩行者優先率が低下

- 立哨実施時に歩行者優先率は向上し、翌週は低下する傾向
- 「能動的立哨」(立哨2)が、最も高い歩行者優先率(73.4%)
- 事後調査では優先率は低下したものの、事前・中間よりもわずかに高い(65.6%)

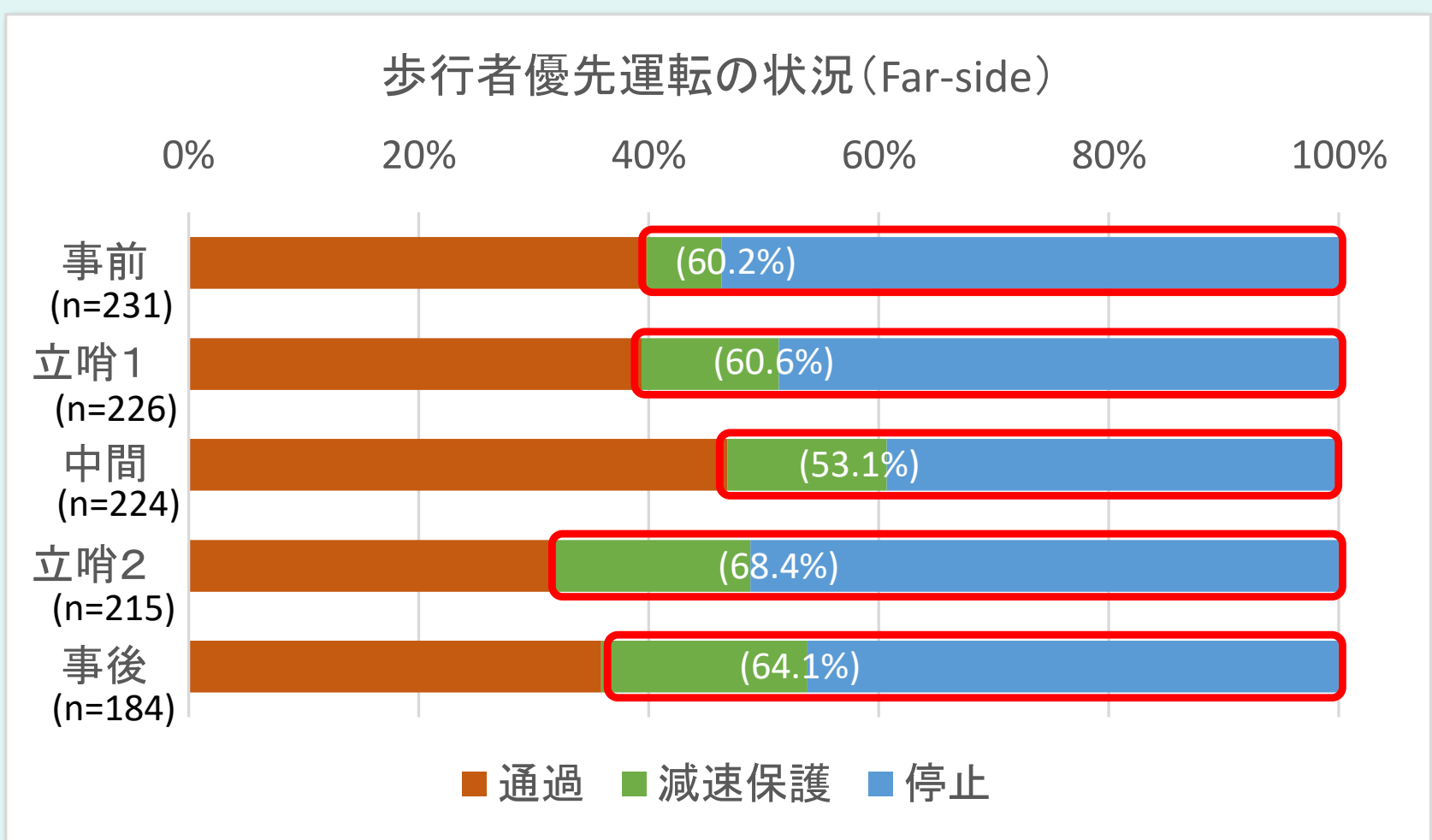


Near side	通過	減速保護	停止	総計	歩行者優先率
事前	51	20	100	171	70.2%
立哨1	33	20	101	154	78.6%
中間	47	13	95	155	69.7%
立哨2	31	18	108	157	80.3%
事後	60	25	97	182	67.0%



- 車両と横断者の位置関係別に集計
- Near-sideでは総じて歩行者優先率が高い傾向
- Far-sideで「能動的立哨」が効果的である可能性示唆

Far side	通過	減速保護	停止	総計	歩行者優先率
事前	92	15	124	231	60.2%
立哨1	89	27	110	226	60.6%
中間	105	31	88	224	53.1%
立哨2	68	37	110	215	68.4%
事後	66	33	85	184	64.1%



まとめ

- 通常の立哨(プレートを持ち路側に立つのみ)よりも「能動的」な立哨(目立つ謝意プレートを持ちドライバーにアイ・コンタクトを取り会釈等で謝意を伝える)の方が、歩行者優先率が高まる。
- 立哨実施時は歩行者優先率が向上するものの、その効果継続は確認できなかった。
- 歩行者優先率の低い Far-side の状況において、効果的である可能性が示唆された。
- 「能動的な立哨」の翌週は歩行者優先率が低下しているものの、事前および中間調査時よりも若干高い値であり、通常立哨よりも効果が持続する可能性がある(ことに期待する)。